

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2022年7月31日（日）

主 題：「じつは、一つなのです」
- 信仰と歩み -

テキスト：第1ヨハネの手紙3章3～7節

はじめに

・お早う ございます。

- ・前回、私たちはイエス・キリストにある者の特権について学びました。
3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たちは神の子どもです。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。
- ・キリストにある人は、キリストに似た者となります。似た者同士という言葉のように、いつも一緒にいて時を過ごすならば、当然似てくるものです。弱者は強者の影響を受けるはずです。
- ・聖書はキリストにある者に、確かな未来（希望）を語っています。それは愛にあって与えられた特権です。
3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。
- ・ヨハネはイエスにある者の幸い、特権を記しました。イエス・キリストにある者は本当に幸いです。ですから、私たちはこのお方に望みを置いて歩むことができるのです。
- ・今日、私たちはイエスにある望みについて、みことばから学びましょう。2点

大切なポイント

1. キリストに望みを置く人

3:3 キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

1) キリストの清さ

- ・私たちは日常生活において、だれに望みを置いているでしょうか。もし人に望みを置くとするならば、いつかは失望することがあります。なぜなら、人間

はどんな立派な人でも、完全な人はないからです。しかし、イエス・キリストは違います。このお方は、完全なお方です。

- 私たちは、キリストというお方に望みを置くならば、私たちの生き方は変わってきます。そしてキリストの本性ひとつである「清さ」への渴望が湧いてきます。それは他の人に比べて、清くなりたいというものではありません。

「キリストが清い方であるように」、清くなることを望むのです。

- 他の人と比べてではないとは、神と私の縦の関係で「清くなる」ことを意味しています。それは全く個人的なものです。天地の創造神と私たちには個人的交わりが与えられているのです。なんとという幸いではありませんか。キリストに望みを置く人の特徴は、キリストが清いお方であるように、自分が清められることを慕い求めるものです。

2) キリストは目標

- 次にヨハネが上げたことは、キリストに望みを置く人は、キリストを目標とする人です。だれでも人生に目標を置くことは大切です。キリスト者の目標は不完全な人に置くものではありません。いいえ、完全なお方イエス・キリストです。
- キリストを自分の歩みの目標とし、キリストのようになりたいと願うものです。ヨハネはこう言いました。

2:6 神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まなければなりません。

- キリストこそ、私たちが変えられていくべき究極的な目標です。
- 3:2 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。
- そうであれば、私たちは今の地上の生活でも、キリストのように歩みたいと願うはずではないでしょうか。

3) 私たちの姿

- しかし、私たちの現実の生活はどうでしょうか。キリストに望みを置く人は、自分をキリストのように清くし、キリストを目標とするものです。しかし、いかがでしょうか。私たちは何を渴望しているのでしょうか。楽しさへの渴望でしょうか。私たちの内側には、自分が霊的であると思われたいという渴望はないでしょうか。
- あるいは、そうならない自分に不満を持ってはいないでしょうか。心の中には、いったい何が占領しているのでしょうか。

- 私たちは神にお祈りし、自分の要求が満足されたことが「恵まれた」と、考えてはいないでしょうか。それは幸いなことです。しかし、それは一時のことであり、それに満足していないでしょうか。それより、さらに大切なことは、キリストの清さを求め、キリストが歩まれたように歩むことです。それが目標となることです。
- イエスの私たちへ願いは、私たちがイエスの祝福（幸い）に与ることです。イエスは言われました。マタイ 11 章
11:28 すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。
11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。
11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」
- 「くびき」とは ⇒ 2頭の家畜で一つの「くびき」を負うこと。
その家畜は、同じ方向に向かうこと（大切）
- イエスと共に負う「くびき」は、じつに幸いなものです。
苦しみ、重荷を自分1人で負うのではりせん。イエスは「わたしのくびき」と言われました。イエスは既に「くびき」を負ってくださっているのです。
その「くびき」に与る者は、イエスをキリストと信じる人のことです。その人がキリスト者です。
- もう一点、大切なことがあります。

2. 信仰と歩みは一つです

1) 罪を犯している者

- 3:4 罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。
- ここでいう「罪を犯している者」とは、いつも罪の生活をしている者という意味です。生活全体の方向性、そして特徴を述べています。罪を犯している者とは、「律法に違反する者」のことです。神が与えられた律法という基準から、外れた者であります。
- その人は神に背を向け、神を無視している者のことです。しかしヨハネは次のように述べました。
3:5 あなたがたが知っているとおり、キリストは罪を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪はありません。
- そうです。キリストが来られたのは、罪を取り除くためでした。

罪を赦し、刑罰を帳消しとするためでした。それは、キリスト者が罪を捨ててキリストに似た歩みをするためです。キリストには罪というものが、何一つありません。キリストは全き、完全なお方です。

2) キリストにとどまる者

- ・しかし、「キリストにとどまる者」は、神の律法に違反する者ではありません。罪のうちを歩むこともあり得ません。
3:6 キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。罪を犯す者はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。
- ・皆さん。罪のうちを歩むことと、キリストにとどまることは正反対のことです。その両立はあり得ないことです。そこで、ヨハネは6節で「罪を犯す者はだれでも、キリストを見たこともなく、知ってもいません」と述べました。
- ・ここに、私たちの外に現れた生き方や歩みを点検することができます。そこでは、人の内にある本質的状态と神との関係が明らかになります。
- ・世の中には、自称クリスチャンという人がいます。つまり、自分に都合のよいクリスチャンです。人、場所、時によって変わります。中にはお寺や神社で平気でお参りし、占いをする自称クリスチャンもいます。
- ・ヨハネが言っているのは、そのような人のことではありません。いいえ、もっと本質的な面で、生ける神との関係を持つ人のことです。その人は、歩みも自然に変わってきます。なぜなら、本物の神に出会い神を知っているからです。

3) 惑わされてはいけません

- 3:7 幼子たち、だれにも惑わされてはいけません。義を行う者は、キリストが正しい方であるように、正しい人です。
- ・ヨハネは、義の生活をしている者が義人である、と述べました。
皆さん。義の生活をする者は義人であり、悪の生活をする者は悪人です。これはシンプルな原則です。だれでも分かりますね。
- ・すなわち、その人の内なる性質と外に現れる生活は一つであるということです。このことをしっかりと理解して、「だれにも惑わされてはいけません」と、ヨハネは勧めました。
- ・ヨハネの時代もそうでしたが、惑わしは今の時代にもあります。
グレーゾーン（灰色の領域）という言葉がありますが、黒色と白色の中間が灰色です。この世の中では、そのようなことは多々ありますが、神の前ではそうであってはなりません。いいえ、神の前ではグレーゾーンは通用しません。なぜなら、神は心の深いところまで見通しておられるからです。ある時、イエス

は言われました。マタイ福音書5章

5:37 あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』
としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。

- ・口先でキリストを知っていると、自称クリスチャンとい言っても、もし罪の内を歩んでいるならば、キリストを知っていることにはなりません。

ヨハネはキリスト者の生き方は、清い生き方を求めると言いました。

3:3 キリストにこの望みを置いている者はみな、キリストが清い方であるように、自分を清くします。

- ・そして、そのような人は、罪の中に生きる者ではないと言いました。

3:6 キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。

- ・このような歩みをする人は、当然のことながらキリストに似た者となります。すなわち、私たちの信仰と歩みは別のものではないのです。同じ人のことです。今日の説教主題は、「じつは、一つなのです」。信仰と歩み、それは一つなのです。いかがでしょうか。私たちは主の前で、自問自答しようではありませんか。

ま と め

主 題：「じつは、一つなのです」

- 信仰と歩み -

- ・今朝も、私たちの主である神はお語りくださいました。
信仰と歩み、それは「じつは、一つなのです」
- ・私たちは地上の生活では、肉を宿としています。魂はイエス・キリストによって救われていますが、肉は罪の性質を持つものです。そこに戦いがあります。では、どうすれば良いのでしょうか。どうすれば、信仰と歩みにおいて勝利を得ることができるのでしょうか？
- ・イエス・キリストとともに「くびき」を負って歩むことが大切と思います。
イエスは言われました。 **マタイの福音書11章**
11:29 わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。
11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

* God bless you !